

教育・文化スポーツ常任委員会 県外行政調査

1 調査日 令和5年11月7日（火）～9日（木）

2 調査の概要

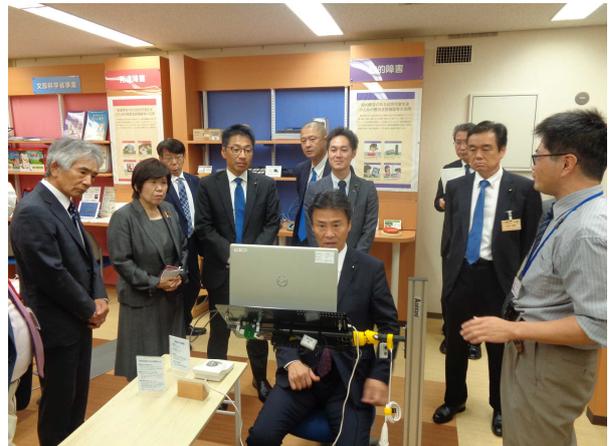
11月7日（火）

（1）独立行政法人国立特別支援教育総合研究所（神奈川県横須賀市）

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所では、特別支援教育に関する総合的研究およびその促進により特別支援教育の振興を図り、専門的、技術的な研修などによる研究成果の普及に取り組んでいる。

特に研究所内のインクルーシブ教育システム推進センターでは、地域や学校におけるインクルーシブ教育システムの構築を支援することを目的に、教育委員会や学校が直面する課題の解決に資する研究に取り組んでいる。

本委員会では特別支援教育の推進を重点審議事項の一つに掲げていることから、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所において、インクルーシブ教育システムの構築に向けた研究状況について調査を行った。



11月8日（水）

（2）独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館（東京都台東区）

独立行政法人国立文化財機構は国立博物館の設置等により、有形文化財を収集、保管し、観覧に供することを通じて貴重な文化財を次世代に継承するとともに、文化財に関する専門的、技術的な調査研究等により、貴重な文化財の効率的かつ効果的な保存と活用を図っている。

東京国立博物館は国立文化財機構により設置された国立博物館の1つであり、人文系の総合的な博物館として、文化財の収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業などを行っており、ホームページ上で所蔵する国宝、重要文化財の高精細画像を多言語による

解説と共に観覧できるようにしたe国宝や、所蔵品を横断的に検索できるC o l B a s eを公表するなど、さまざまな文化財の活用を行っている。

本委員会では、滋賀の美の魅力発信と文化財の活用を重点審議事項の一つに掲げていることから、東京国立博物館における文化財の活用方法について調査を行った。



(3) ハイパフォーマンススポーツセンター（東京都北区）

ハイパフォーマンススポーツセンターではスポーツ医学・科学、最新情報等による研究により、科学的トレーニング環境の提供など、高度な支援を戦略的・包括的に提供できる体制を構築し国内外でのスポーツ振興に貢献している。また、オリンピック等の競技会で活躍するアスリートの発掘や育成の手法、仕組みを開発し、将来性の豊かな地域アスリート等の強固で持続可能な育成の道筋の構築を目指している。

本委員会では、スポーツの更なる振興に向けた活動の推進と環境の整備を重点審議事項の一つに掲げていることから、ハイパフォーマンススポーツセンターにおけるアスリートの発掘・育成・強化に係る取組およびスポーツ科学等に基づく競技力向上の支援について調査を行った。



(4) 東京学芸大学附属国際中等教育学校（東京都練馬区）

東京学芸大学附属国際中等教育学校は、平成27年3月に国際バカロレア（以下、IB）機構が提供する教育プログラムを、中高一貫で実施する全国初の国公立学校となっており、IBのプログラムの方向性を活用しつつ、文部科学省の学習指導要領に基づくカリキュラムを構築し、その教育課程を経た卒業生を輩出している。

滋賀県においても県立虎姫高等学校が、平成31年3月にIBのディプロマプログラム実施校として西日本の国公立学校としてはじめて認定され、今春、1期生が卒業したところであるが、一方でバカロレアを選択する生徒がまだ少なく、生徒数の確保といった課題もある。本委員会では、魅力ある県立高等学校づくりを重点審議事項の一つに掲げていることから、先進地である東京学芸大学附属国際中等教育学校の、国際バカロレア教育の取組について調査を行った。



11月9日（木）

(5) ぐんまマラソン実行委員会事務局（群馬県前橋市）

ぐんまマラソンは市民マラソンとして1991年に第1回が開催され、その後、距離別のマラソン種目といった参加形式の多様化などにより、開始当初に約2,500人であった参加者が最多時には約15,000人となっており、今年度も11月3日に第33回ぐんまマラソンが開催されることとなっている。

滋賀県ではびわ湖マラソン2024の開催を予定しているが、主催としての市民マラソンの開催はまだ2回目であり、今後の大会規模やマラソン種目の方向性についても検討が続けられることとなっている。また、本委員会では、スポーツの更なる振興に向けた活動の推進を重点審議事項に位置づけていることもあり、県主催の市民マラソンとしての先進地である、ぐんまマラソンの実行委員会事務局において取組の調査を行った。

